

# 佐賀県内水対策プロジェクト拡大会議

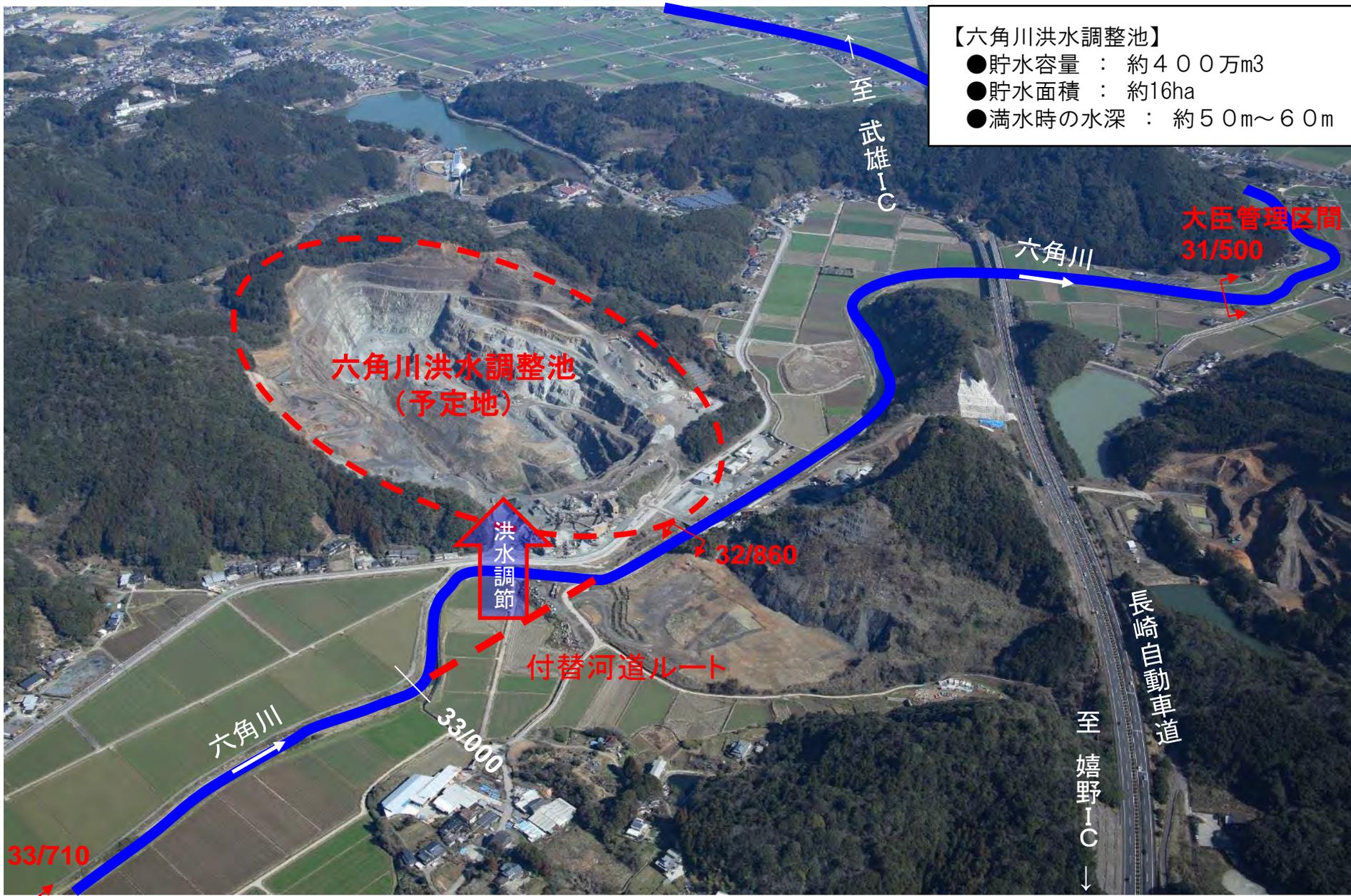
---

令和6年6月10日

九州地方整備局  
武雄河川事務所



# 六角川洪水調整池



【六角川洪水調整池】

- 貯水容量 : 約400万m<sup>3</sup>
- 貯水面積 : 約16ha
- 満水時の水深 : 約5.0m~6.0m

1. 六角川洪水調整池の全体像は写真のようになります。
2. 六角川洪水調整池の整備は、
  - ①河道の付替え
  - ②流入施設の整備
  - ③調節施設の整備の三段階で行います。



※水を貯める部分については、現在も採石が行われているため、今後形状が変わります

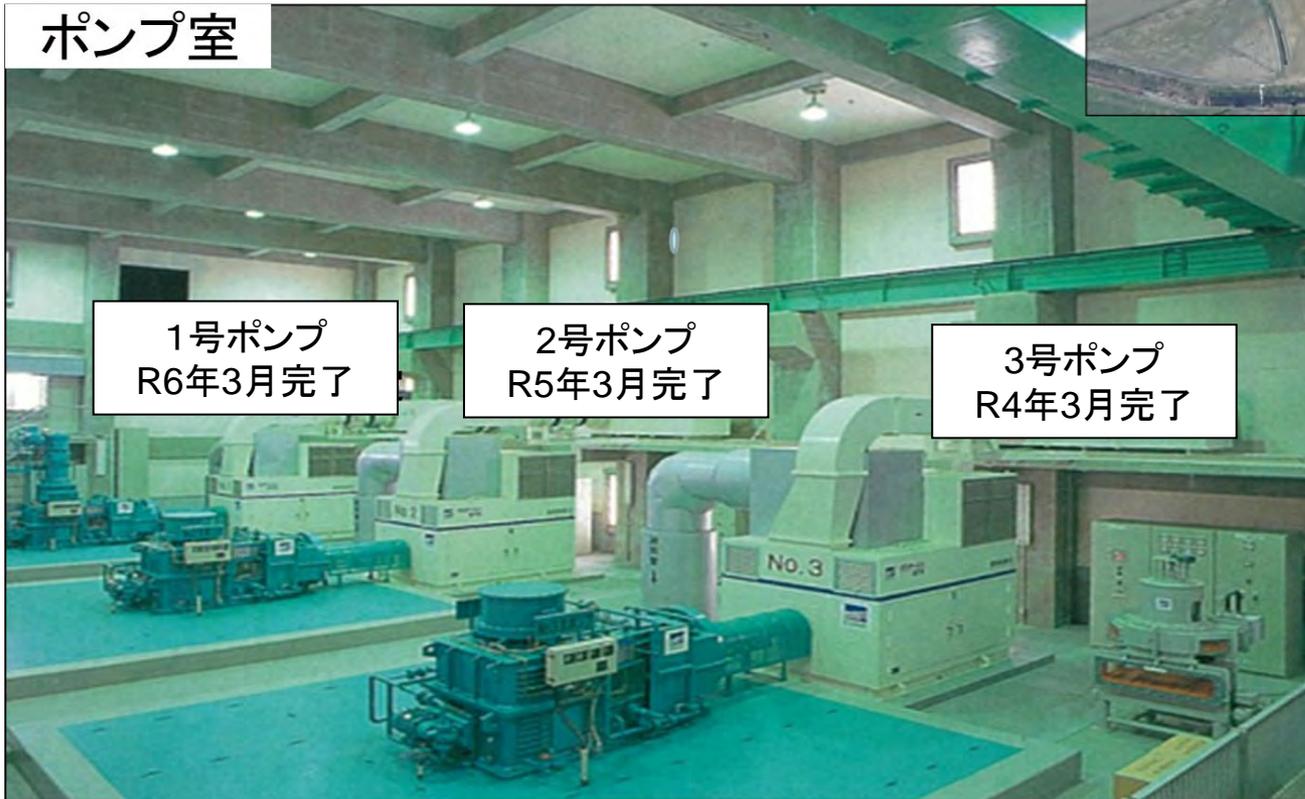


令和6年4月末時点

- 高橋排水機場の増設 (5.0 m<sup>3</sup>/s ⇒ 6.1 m<sup>3</sup>/s)
- 九州最大の排水能力を有する排水機場となる



## ポンプ室



1号ポンプ  
R6年3月完了

2号ポンプ  
R5年3月完了

3号ポンプ  
R4年3月完了

## 増強工事後のポンプ



- ・六角川に設置された「ヨシ繁茂抑制のために設置した湛水池」の概要です。
- ・六角川中流の流下能力が不足する区間に湛水池を設置して水の流れをスムーズにしています。

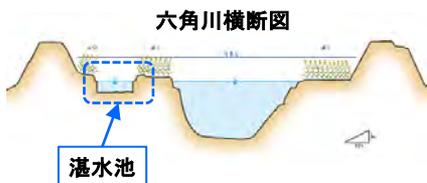
## 六角川位置



## 湛水池の全景



## 湛水池の構造



- ・池周りは、杉の丸太と板で囲って保護しています。
- ・流入口は約2mでブロックで保護しています。

## 流入口の様子

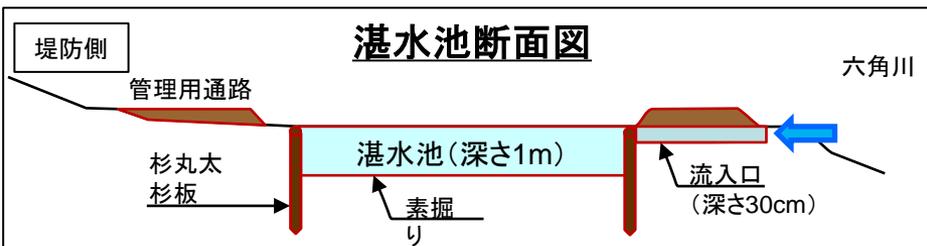


大潮の時に、この部分から池に水が入るように高さを決めています。

大潮の時に、流入口から水が入っています。

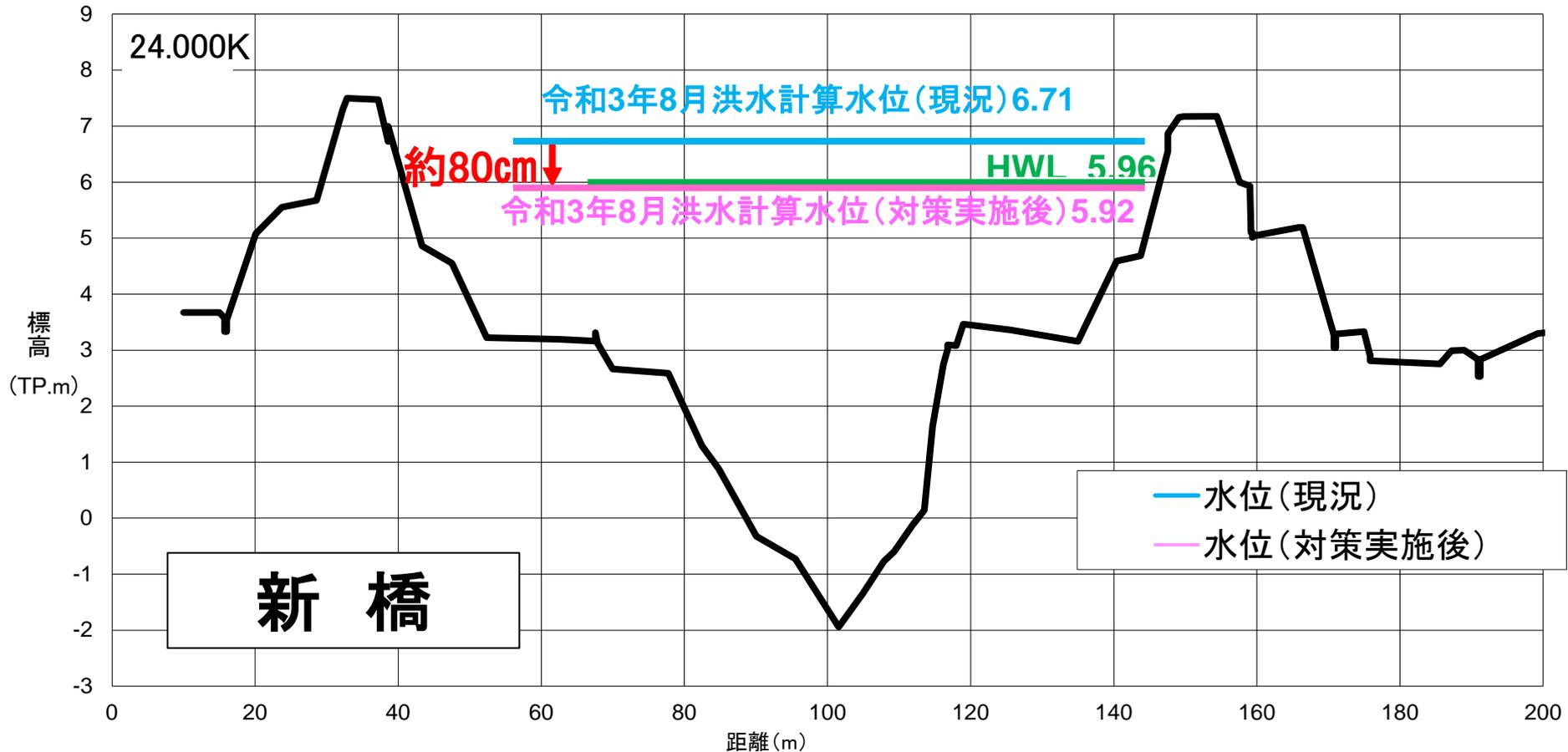


## 湛水池断面図





- 令和3年8月洪水に対し、河道掘削、ヨシ繁茂抑制対策を実施することにより、**新橋付近での水位をHWL以下に低下(約80cm)**することで**ポンプ運転調整を回避**させる。



※数値はシミュレーション結果によるもので検討状況により変更あり



令和6年4月末時点

令和6年4月末時点

芝浦排水樋管(新設)

芝浦排水樋管(既設)

引堤盛土

牛津川



## 六角川の特徴と特定都市河川の指定までの動き



令和元年8月豪雨  
浸水状況(武雄市)  
浸水面積  
5,759ha  
床上浸水家屋  
1,209戸

### R1.8 令和元年8月豪雨による浸水被害

R1.12 「六角川水系緊急治水対策プロジェクト」策定  
(激特事業等による再度災害防止対策に着手)



令和3年8月豪雨  
浸水状況(武雄市)  
浸水面積  
5,407ha  
床上浸水家屋  
1,248戸

### R3.8 令和3年8月豪雨による浸水被害

R3.11 改正特定都市河川浸水被害対策法の施行  
(特定都市河川の指定を全国の河川に拡大)

R4.3 「新・六角川水系流域治水プロジェクト」策定  
(「特定都市河川浸水被害対策法等の活用」を位置づけ)

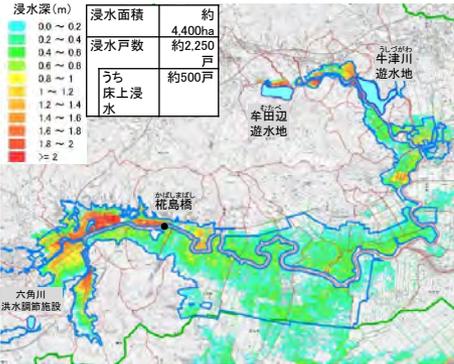


第5回協議会の実施状況(R4.11)

### R4.11 六角川水系流域治水協議会開催

六角川(柵島橋より上流)の特定都市河川指定に向け調整を進めることを流域関係者と確認

### R5.3 六角川を特定都市河川及び特定都市河川流域に指定



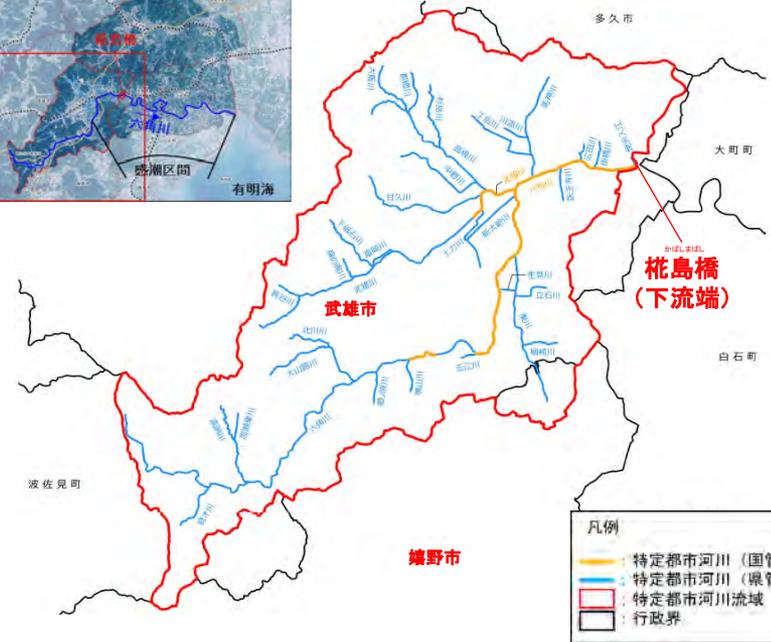
河川対策を進めても床上浸水が約500戸残る  
(図 新・六角川水系流域治水プロジェクト リーフレット抜粋)

- 六角川では、R3.8豪雨等により武雄市など沿川地域で甚大な浸水被害が発生
- 六角川は低平地を緩流する蛇行河川であり、約6mの干満差による潮位変動を受け、洪水時の排水が困難

## 特定都市河川の指定内容

六角川(柵島橋より上流)  
特定都市河川の指定  
R5.3.28指定

河川区間:六角川水系六角川等の計33河川  
流域面積:約99km<sup>2</sup>(流域内市町村:武雄市・嬉野市)



河道等の整備のみでは早期の浸水被害解消が困難であり、  
特定都市河川の指定により、「流域治水」を本格的に実践

- 目標は、令和3年8月降雨に対して、河川整備・雨水貯留浸透施設整備・既存施設を活用した流域対策・住まい方の工夫など、多層的な対策により、床上浸水の解消とする
- 特定都市河川流域の中でも、水害常襲地区である橘地区・朝日地区・北方地区を重点整備地区として、流域に降った雨を“貯留”する対策及び住まい方の工夫による浸水被害軽減に向けた取組を重点的に進める
- 計画対象降雨を超える降雨に対しても、人命を守ることを最優先とし、経済被害の軽減に取り組む

## ① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策 (ハザードへの対策)

- ◆ 河川整備
- ◆ 下水道整備
- ◆ 雨水貯留浸透施設等の整備
- ◆ 既存施設の治水活用
- ◆ 森林整備・保全 等



河川整備の推進

## ② 被害対象を減少させるための対策 (暴露への対応)

- ◆ 雨水浸透阻害行為の許可
- ◆ 貯留機能保全区域の指定
- ◆ 浸水被害防止区域の指定
- ◆ 災害リスクの低い土地への移転、居住誘導
- ◆ 宅地の嵩上げ 等



貯留機能を有する土地のイメージ

住宅・要配慮者施設等の安全性を事前許可制とする



浸水被害被害防止区域における居住誘導・住まいづくりの工夫のイメージ

## ③ 被害の軽減、早期復旧、復興のための対策 (脆弱性への対応)

- ◆ “逃げ遅れゼロ” へ向けた情報発信システム等の整備
- ◆ 防災教育や防災知識の普及に関する取り組み
- ◆ 支川の洪水浸水想定区域図作成等水災害リスク情報の充実 等



水災害リスク情報の充実



防災知識の普及活動

